

## 共同研究支援報告書

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 氏名    | 柏 一靖                          |
| 所属大学名 | 大阪大学 連合小児発達学研究所               |
| 職位    | 博士課程2年                        |
| 研究題目  | 神経性やせ症における発症及び症状維持に関わる認知機能の検討 |

|          |          |    |
|----------|----------|----|
| 短期支援(1年) | 長期支援(3年) | 年目 |
|----------|----------|----|

|                  |  |
|------------------|--|
| <p>本年度の内容報告</p>  | <p><b>研究背景</b> 神経性やせ症(以下、AN)は、思春期の女性に高率に発症し、強いやせ願望による厳格な食事制限から極端な低体重に陥り、死亡率が5-7%と非常に高い精神疾患である。ダイエット、断食、過剰な運動など、体重増加を妨げる行動が繰り返されることに加え、体重をコントロールすることへのこだわりが見られる。ANの症状維持に関する理論モデルでは、柔軟性のない認知スタイルは症状の維持要因の一つである。ANでは、認知の柔軟性(セットシフティング)と全体統合性(セントラルコヒーレンス)の認知機能の障害が指摘されている。</p> <p>一方で、ANの認知特性は、自閉スペクトラム症に顕著である「限定された反復的な行動様式と限局または固執した興味へのこだわり」に類似しており、ANの約23%の患者にASDの併存があると報告されている。</p> <p><b>研究目的</b> 本研究は、日本において<u>セットシフティング</u>と<u>セントラルコヒーレンス</u>のスコアを自閉スペクトラム症の特性及びANの精神病理である体重・体型へのこだわり、食事制限等との関連を明らかにすることを目的とする。</p> <p><b>研究方法</b> 対象数はAN患者15名、健常者15名である。性別は問わない。以下の全ての条件に該当するAN対象者とする。</p> <p>1)DSM-5における神経性やせ症(回避・制限性食物摂取症等、以下ARFID、のやせを生じさせる摂食障害を含む)の診断基準を満たす者。2)罹病期間が3.5年以内の者。3)同意取得時のBMIが14.0~18.5kg/m<sup>2</sup>の者。4)同意取得時の年齢が10~25歳以下の者。</p> <p><b>研究の使用尺度</b></p> <p>認知機能検査項目と自閉スペクトラム症検査項目(全対象者):</p> <p>1)Wisconsin Card Sorting Task(WCST)、2)The Brixton Spatia Anticipation Test(BAST)、3)Rey-Osterrieth Complex Figure Test(ROCFT)、4)Autisms spectrum Quotient(AQ)</p> <p>症状評価項目(AN群のみ):</p> <p>1)Eating Attitudes Tese(EAT-26)2)Wechsler Intelligence for Children-Fifth Edition(WISC-V)、Wechsler Adult Intelligence Scale-Fourth Edition(WAIS-IV)、3)Autism Diagnostic Observation Schedule Second Edition(ADOS-2)</p> <p><b>結果</b> 現在5名のANとARFIDの患者(全員女性)が参加している。5名の検査結果を表1、2に示した。ケース1、2、4はAN患者であり、EAT-26のスコアも高い。ケース3、5はARFIDの患者であり、EAT-26で低く、やせ願望や体重へのこだわりがない。ケース2は知能検査とADOS-2同意を得られなかった。</p> <p>ケース1とケース3は知能検査のスコアが高い。WCSTとBSATのエラー数が少なく、レイのスコアが高いとみられる。レイのスコアと、視空間のスコアも関係があると考え。</p> <p>特にケース1はADOS-2によって自閉症を診断されて、BMI値も非常に低い。しかし、認知機能検査の結果は他のケースより良いとみられる。</p> <p>知能検査のスコアが低いケース4は、WCSTとBSATのエラー数が多くて、レイのスコアも低いとみられる。</p> <p>今回は、まだ5名の結果のみ収集している、今後さらに対象者をリクルートして、認知機能検査と知能検査の下位項目との関連、および健常者とのベースラインの比較を見ていきたいと思う。</p> |
| <p>成果(論文発表等)</p> |  |